

2024年12月8日 実施

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会
後援 文 部 科 学 省

令和6年度 第16回 財務諸表分析検定試験

(制限時間90分)

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、問題は開いてはいけません。
2. 問題の表紙と解答用紙の指定欄に試験場校名・受験番号を記入
しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 試験は「始め」の合図で開始し、「止め」の合図があったら解答
の記入を中止し、ただちに問題を閉じなさい。
5. 試験終了後、問題用紙も回収します。

試験場校名 _____ 受験番号 _____

【1】 次の(1)~(5)について、下線部が正しいときは○を記入し、誤っているときは訂正しなさい。
ただし、正しいものを訂正した場合は誤答とし、すべてに○を記入した場合は5問全部を無効とする。

- (1) 他の要素と関連づけて分析する（財務諸表のさまざまな数値や金額の割合を用いる）方法を趨勢分析という。
- (2) 連単倍率は、子会社の個別財務諸表に対する連結財務諸表の数値の割合を比較する倍率である。
- (3) 当座資産を「現金預金+受取手形+売掛金+有価証券」と定義するならば、当座比率の数値は必ず流動比率の数値以下になる。
- (4) 「資産-負債=純資産」という、純資産を計算する会計学上の見方を収益費用アプローチという。
- (5) R O Aとは、Return On Assetsの英語表記の略語である。

- 【2】 食品販売を展開しているA社の下記の〈資料1〉・〈資料2〉は、要約損益計算書・分析指標を第×1年度から第×4年度と第×5年度見込みまでのものを示したものである。これらをもとに、次の設問に答えなさい。なお、計算上端数が生じた場合、金額は百万円未満を四捨五入する。％は小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。ただし、小数点第1位の数値がないときは、例えば、9.0％のように解答すること。

〈資料1〉 要約損益計算書（単位：百万円）

	第×1年度	第×2年度	第×3年度	第×4年度	第×5年度見込
売上高	4,560	4,870	5,110	5,320	(?)
売上原価	1,365	1,464	1,850	1,896	1,668
売上総利益	3,195	3,406	3,260	3,424	(?)
販売費及び一般管理費	1,002	1,142	1,187	1,254	1,352
営業利益	2,193	2,264	2,073	2,170	(?)

〈資料2〉 分析指標

	第×1年度	第×2年度	第×3年度	第×4年度	第×5年度見込
売上高売上原価率	29.9%	30.1%	36.2%	(a) %	(?) %
売上高売上総利益率	70.1%	69.9%	63.8%	(b) %	(?) %
売上高販売費及び一般管理費率	22.0%	23.4%	23.2%	(c) %	(?) %
売上高営業利益率	48.1%	46.5%	40.6%	(d) %	(?) %

- 問1 次の文章の（ 1 ）から（ 6 ）にあてはまる数値や語句を〔解答群〕から選び、記号で答えなさい。

〈資料1〉要約損益計算書により、A社は、売上高の実績にもとづいて第×5年度の予測を行った。そこで過去4年間の売上高の実績における対前年度比の平均をもとに求めることにした。各年度の対前年度比は、第×2年度が（ ? ）％・第×3年度が（ 1 ）％・第×4年度が（ 2 ）％である。対前年度比の平均を求めると第×5年度は（ 3 ）％である。この比率を使うと第×5年度の売上高（見込）は（ 4 ）百万円となる。

他方、A社の第×3年度の売上高が増加したにもかかわらず、売上高売上総利益率が低下している。原因は売上原価の伸び率が、売上高の伸び率よりも（ 5 ）からである。その原因として、仕入価額や仕入れに要した運送料・保険料・荷造費などの（ 6 ）が考えられる。

〔解答群〕

ア. 93.6	イ. 95.0	ウ. 95.3	エ. 96.1	オ. 104.1
カ. 104.9	キ. 105.3	ク. 106.8	ケ. 5,054	コ. 5,602
サ. 上昇	シ. 下落	ス. 大きい	セ. 小さい	

- 問2 〈資料1〉要約損益計算書をもとに〈資料2〉分析指標の第×4年度の（ a ）から（ d ）にあてはまる数値を計算しなさい。

- 問3 文章中の①から④の【 】欄について、適切な語句を記号で選びなさい。

第×5年度の予測からA社の経営成績のよしあしが判断される。〈資料2〉分析指標により、第×4年度の実績と比較し比率を分析したところ、売上高売上原価率は①【ア. 増加 イ. 減少】し、売上高販売費及び一般管理費率は②【ア. 増加 イ. 減少】している。そこで、③【ア. 本業 イ. 本業以外】で儲けた利益である営業利益を含んだ売上高営業利益率を比較し分析した結果、A社は業績が④【ア. 改善 イ. 悪化】していると判断される。

【3】 〈資料〉に示したグラフおよび財務諸表により、次の問1から問5に答えなさい。

なお、解答にあたっては以下の事項に留意すること。

1. 各分析指標の数値は、算出結果のみを解答すること。(計算式は不要)
2. 各分析指標の数値は、%または回および日の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。ただし、小数点第1位の数値がないときは、例えば、9.0%のように解答すること。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えばマイナス5.3%の場合は「△5.3%」と解答すること。
4. 棚卸資産回転率は、売上高を用いて計算すること。
5. 棚卸資産平均回転期間は、棚卸資産平均有高を1日平均売上高で除して計算すること。
6. 年間営業日は、365日で計算すること。
7. 売上債権は、売掛金+電子記録債権-貸倒引当金で計算すること。

問1 アパレルファッション製造販売A社の×4年(前期)および×5年(当期)の安全性に関する次のaからfの分析指標を求め、〈資料〉に示したグラフの①から⑥に入る数値を答えなさい。

- a 流動比率
- b 総資産負債比率
- c 純資産負債比率
- d 固定長期適合率(その他の包括利益累計額は含まない)
- e 売上高支払利息比率
- f 売上高営業キャッシュ・フロー比率

問2 次のA社の概要と安全性について考察した文章中の(1)から(10)に、適切な語句・分析指標名・数値を右上の【解答群】から記号を選び答えなさい。なお、同じ記号を2回以上用いてもよい。

バッグやジュエリーを主力商品とするアパレルファッション製造販売のA社は、20代の若い女性をターゲットに急成長を続けたが、10年程前より人気にかげりが見え始め、近年は苦戦が続いている。そこに新型コロナウイルス感染症の影響も受け、×2年には大手ファッションメーカーK社の子会社となった。経営陣は、新たな基幹システムの構築・物流拠点の統合化・店舗の統廃合などの改革を進めているが、経営改善の見通しはまだ立っていない。

分析指標を用い短期の安全性を分析してみる。流動比率は、×4年(前期)に対し×5年(当期)は急激に低下している。この指標は、数値が高いほど支払能力が高いと判断されるが、アメリカでは(1)とも言われ、(2)%を超えることが望ましいとされている。さらに厳密に支払能力を測定するため(3)とも呼ばれている当座比率も求めてみると、×4年(前期)が(4)%に対し×5年(当期)は(5)%とこちらも低下している。この比率は少なくとも(6)%以上が望ましいとされており、即座の支払能力にだいた問題がある。

続いて長期の安全性を分析してみる。総資産のうちどれだけ負債が占めているかをみる総資産負債比率は、×5年(当期)は95%を超え極めて危険な状態であることを示している。この比率が(7)%を超えることを(8)といい保有している総資産より負債が大きい状態となる。また、固定資産を調達するための資金を安全な源泉でどのくらいまかなっているのかをみる固定長期適合率を計算してみると、この指標も×4年(前期)に比べてa. ×5年(当期)は急激に悪化しており、(9)の返済のために固定資産を売却しなければならない目安の100%をはるかに超えている状態である。

キャッシュ・フロー計算書の数値も用いて分析してみる。営業活動によるキャッシュ・フローの金額は(10)期続けてマイナス数値となっていて、売上高から経常的な営業資金を得られておらず、安全性の観点から好ましくない状態が続いていると言える。さらに、売上高支払利息比率もこの5年間上昇してきており、販売努力によるb. 資金が有利子負債により拘束されていると考えられ、安全性に問題がある。

このようにA社の財政状態は、極めて危険な状態に陥っていると言え、経営陣による経営改善の成否は今後の財務諸表を注視する必要がある。

[解答群]

ア. 債務超過	イ. 財政困窮	ウ. 純資産
エ. 流動負債	オ. 固定負債	カ. 固定比率
キ. 銀行家比率	ク. 自己資本比率	ケ. 酸性試験比率
コ. DEレシオ	サ. 57.9	シ. 60.1
ス. 23.1	セ. 22.2	ソ. 100
タ. 200	チ. 300	ツ. 2
テ. 3	ト. 4	

問3 問2の下線部bと同様に、棚卸資産に資金が拘束され安全性に問題をもたらしていないかを確認するため、棚卸資産回転率（売上高対棚卸資産）を計算して分析してみることにした。下記の文章中Ⅰ～Ⅵの【 】欄について、ア・イのうち適切な語句および数値の記号を解答欄に記入しなさい。なお、指標の計算にあたっては、計算の最終段階で回および日の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。

この指標は、棚卸資産が売上高に対して何回転しているかを表し、Ⅰ【ア. 収益性 イ. 安全性】の指標として扱われることも多いが、この回転数が高いことは、売上高を生み出す棚卸資産に資金が滞留している時間が短く、拘束されている資金が少なくて済んでおり、資産の減少をもたらす負債も少なくて済むので、企業のⅡ【ア. 収益性 イ. 安全性】を測る指標ともいえる。

A社の棚卸資産回転率を計算してみると、×4年（前期）は3.3回、×5年（当期）はⅢ【ア. 3.9 イ. 4.4】回で当期は前期に比べて高くなっている。また、棚卸資産平均回転期間も求めてみる。この指標は、日単位で表され、この日数が少ないほど拘束される資金も少ないことを示している。A社の棚卸資産平均回転期間を求めてみると、×4年（前期）は、Ⅳ【ア. 111.5 イ. 101.3】日、×5年（当期）はⅤ【ア. 82.8 イ. 93.6】日で当期は前期に比べて短くなっている。A社は、高級ブランドに位置付けられており、棚卸資産回転率はファストファッションブランドなどと比較して低く、平均回転期間はⅥ【ア. 長い イ. 短い】が、同種他社の数値と比較しても決して優良な数値ではない。したがって、これらの指標は、前期に比べて当期は良化しているが、A社の安全性が高まっているとは言えない状況である。

問4 問2の下線部aについて、固定長期適合率は×4年（前期）と比較して×5年（当期）の指標が急激に悪化した。その原因について説明している下のア～エの文章のうち、最も正しいと思われるものはどれか、[解答群] から1つ選んで記号で答えなさい。

[解答群]

ア. 短期借入金の返済などのため、×5年（当期）は×4年（前期）と比較して、現金および預金が10億円ほど減少するなど流動資産が減少したため。
イ. ×5年（当期）は、遊休地や不要設備などの売却を進め、固定資産が減少したため。
ウ. ×4年（前期）の長期借入金の返済時期が1年以内となったので、×5年（当期）は流動負債に表示が変更されたため。
エ. 経営再建のため積極的に投資を行い、M&Aや新規店舗の開業を行ったため。

問5 A社の当期の有価証券報告書には、以下のような財務改善に関する注記事項が記載された。なお、下記の注記事項における対応策は×5年度末時点で実施されておらず、〈資料〉の財務諸表の数値には反映されていない。

注記事項

財務面におきましては、×5年4月開催の取締役会において、×5年5月30日開催の当社定時株主総会での承認可決を条件として、当社は株式会社K（当社親会社）からの資金調達を含む財務体質の改善施策を決議いたしました。

- ① 株式会社K（当社親会社）との間で、引受契約書を締結し、第三者割当の方法により、総額18億円のA種種類株式を発行すること
- ② A種種類株式に関する規定の新設等に係る定款の一部変更を行うこと
- ③ A種種類株式の払込みの日を効力発生日として、資本金及び資本準備金の額を減少し、その他資本剰余金へ振り替え、本資本金等の額の減少により増加したその他資本剰余金の一部で繰越利益剰余金の欠損を填補すること
- ④ ×5年5月30日開催の当社定時株主総会に、A種種類株式の発行、本定款変更、本資本金等の額の減少及び本剰余金の処分に係る各議案を付議すること

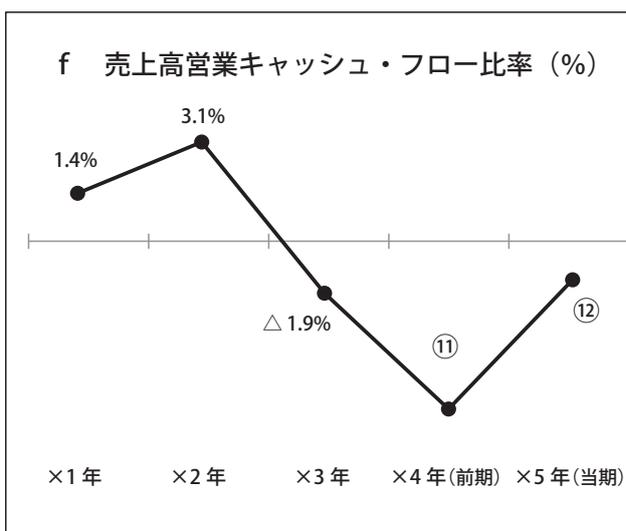
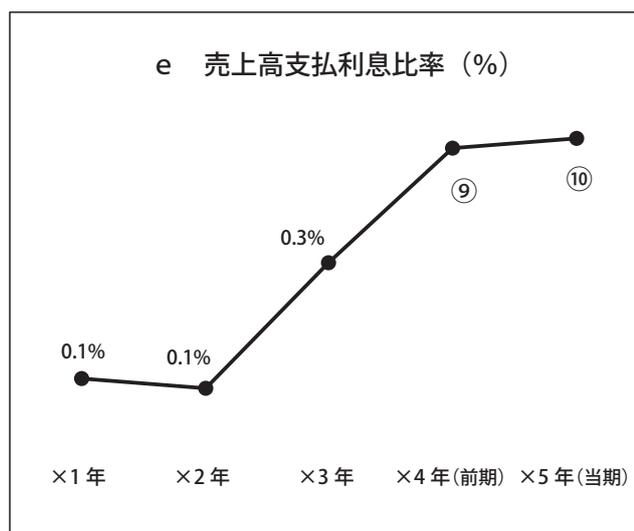
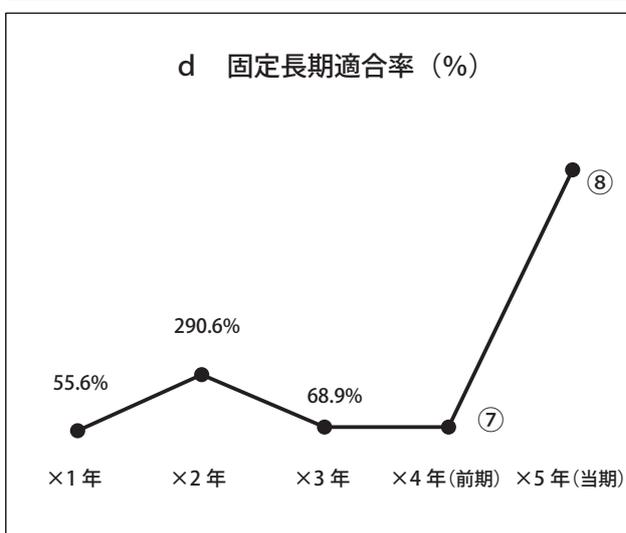
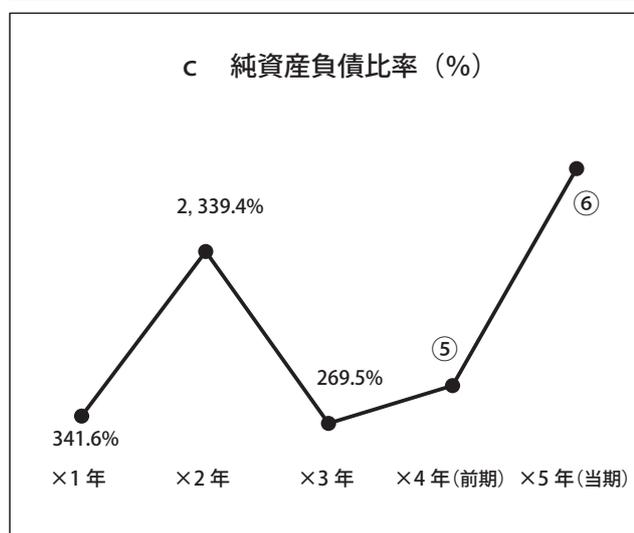
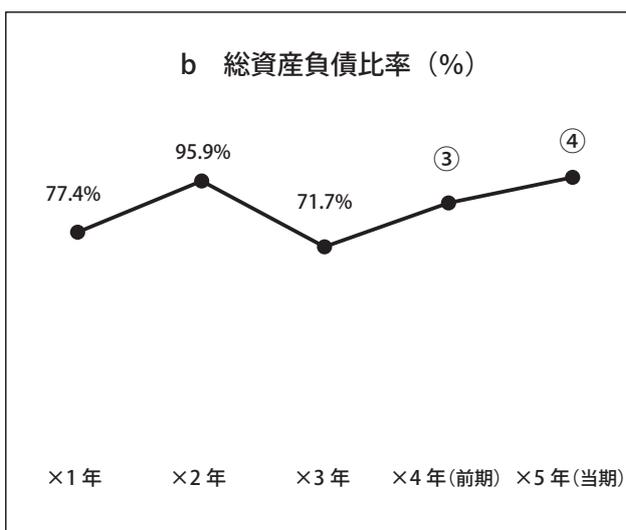
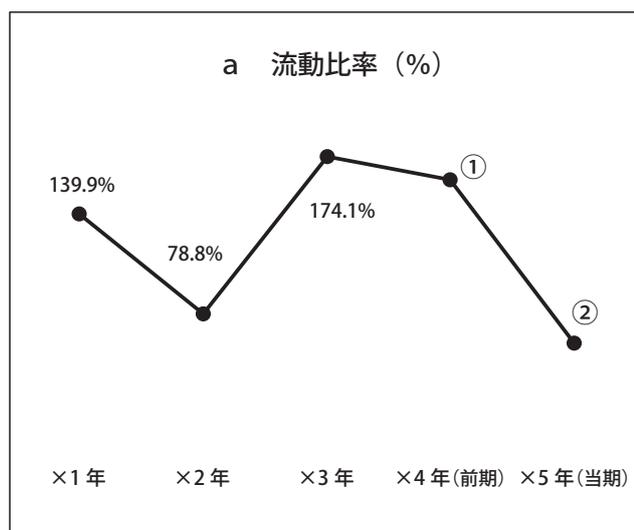
（注1）A種種類株式とは、一般的な普通株式と権利の内容が異なる株式のこと。

仮に上記改善策が実施された場合、純資産固定負債比率は、×5年（当期）の純資産固定負債比率に比べて何%分改善されるか計算しなさい。

※計算に関する留意事項

- I 上記注記事項のデータ以外の数値は、当期のデータと変わらないものとする。
- II 解答は、計算の最終段階で%の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで行うこと。
- III 純資産固定負債比率は低い方が望ましいので、仮に×5年の数値が60.0%で、改善策実施後の数値が40.0%とした場合、60.0% - 40.0%で20.0%分改善と解答すること。

〈資料〉



〈資料〉

A社の要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

	× 4年(前期)	× 5年(当期)		× 4年(前期)	× 5年(当期)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	3,186	2,182	買掛金	654	796
売掛金	1,038	1,196	電子記録債務	51	103
電子記録債権	4	91	短期借入金	3,914	2,754
商品及び製品	7,043	5,728	1年内返済予定長期借入金	400	9,934
仕掛品	2	0	未払費用	1,708	1,248
原材料及び貯蔵品	91	84	未払法人税等	116	208
前払費用	158	130	契約負債	-	120
その他	183	151	賞与引当金	186	213
貸倒引当金	△ 1	△ 1	その他	266	212
流動資産合計	11,704	9,561	流動負債合計	7,295	15,588
固定資産			固定負債		
有形固定資産			長期借入金	9,934	-
建物(純額)	1,626	1,435	繰延税金負債	389	55
車両運搬具(純額)	1	1	資産除去債務	133	134
備品(純額)	69	49	その他	301	91
土地	3,412	2,949	固定負債合計	10,757	280
建設仮勘定	12	1	負債合計	18,052	15,868
その他(純額)	2	1	純資産の部		
有形固定資産合計	5,122	4,436	株主資本		
無形固定資産			資本金	2,132	2,132
商標権	1,165	55	資本剰余金	7,921	7,921
ソフトウェア	347	281	利益剰余金	△ 7,750	△ 9,748
その他	16	15	自己株式	0	△ 1
無形固定資産合計	1,528	351	株主資本合計	2,303	304
投資その他の資産			その他の包括利益累計額		
投資有価証券	28	28	その他有価証券評価差額金	0	1
差入保証金	1,863	1,698	為替換算調整勘定	△ 77	△ 212
長期前払費用	27	15	その他の包括利益累計額合計	△ 77	△ 211
繰延税金資産	-	16	非支配株主持分	288	381
その他	294	237	純資産合計	2,514	474
投資その他の資産合計	2,212	1,994			
固定資産合計	8,862	6,781			
資産合計	20,566	16,342	負債・純資産合計	20,566	16,342

追加情報

(単位：百万円)

前期首棚卸資産	8,357
前期末営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,476
当期末営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 379

A社の要約連結損益計算書

(単位：百万円)

	× 4 年 (前期)	× 5 年 (当期)
売上高	25,366	25,241
売上原価	12,217	11,881
売上総利益	13,149	13,360
販売費及び一般管理費	15,905	15,078
営業損失 (△)	△ 2,756	△ 1,718
営業外収益		
受取利息	8	13
受取配当金	5	0
為替差益	151	164
不動産賃借料	118	121
補助金収入	161	47
その他	49	30
営業外収益合計	492	375
営業外費用		
支払利息	136	140
支払手数料	6	5
不動産賃借費用	39	37
その他	51	24
営業外費用合計	232	206
経常損失 (△)	△ 2,496	△ 1,549
特別利益		
固定資産売却益	0	684
投資有価証券売却益	92	0
その他	0	0
特別利益合計	92	684
特別損失		
固定資産除却損	7	7
固定資産売却損	0	1
減損損失	1,612	1,244
その他	33	0
特別損失合計	1,652	1,252
税金等調整前当期純利益	△ 4,056	△ 2,117
法人税, 住民税および事業税	74	160
法人税等調整額	△ 39	△ 350
法人税等合計	35	△ 190
当期純損失 (△)	△ 4,091	△ 1,927
非支配株主に帰属する当期純利益	61	68
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 4,152	△ 1,995

【4】 A社の〈資料1〉・〈資料2〉により問に答えなさい。

〈資料1〉

○ A社の概要

2X13年に(株)Aゾウとして出発し、後に「Aカリ」に社名を変更した。オンライン上で個人同士がフリーマーケット(フリマ)のように物品売買を行う「Aカリ」(フリマアプリ)のサービス開始。アメリカ版「Aカリ」、電子決済サービス「Aペイ」を加えた3事業を展開し、フリマアプリという新しいコンセプトで急成長を遂げている。

○ A社の主なできごと

創業から6期目の2X18年に、業績赤字が続くなかで上場した日本では珍しいユニコーン企業(上場前に企業価値が10億ドル以上あるベンチャー企業)として注目を集めた。また、2X20年にB社(車のカスタマイズを共有するサイトの会社)を買収する。

○ A社の販売戦略

2X19年、キャッシュレス決済サービス「Aペイ」をスタート。Aペイの決済手数料を得るビジネスモデルを開始。同年9月には月間利用者数が2,000万人を突破した。

○ Aカリの主な収入源

フリマアプリを使って出品者が商品を販売した時の「販売手数料」と購入者が支払う「購入手数料」である。それぞれの手数料を10%に設定している。

(例:Aカリで1万円の物が売れたら、1,000円を販売手数料として徴収し、購入者からも購入手数料として1,000円を徴収している。)

問 下記の文章の□①～□⑧の中に最もあてはまる語・数値を〔解答群〕の中から記号で選びなさい。なお、□②・□⑤は、%の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで計算すること。ただし、小数点第1位の数値がないときは、例えば、10.0%のように解答すること。

○ A社の2X20年6月期をみると□①という結果になった。これは、前期・当期ともに売上高の伸び率以上に、費用(販売費及び一般管理費)の伸び率(□②%)が高いからである。そのために、利益が食いつぶされてしまっている状態である。

また、売上高について見ると、この3期間で大きく成長している。2X20年6月期には2X18年6月期と比較すると2倍以上の規模となっている。売上高成長率と併せて考えると、□③であることの表れであるとみられる。

○ A社は、ユーザーが出品した商品の売上金を「預り金」として管理している。これはユーザーのお金で、いづれ返さなくてはならない「負債」である。ユーザーが増えて商品が売れるほど、預り金が増えて負債も、総資産(現金及び預金など)も増えていく構造である。利益となるのは、ユーザーが商品を買ったときやAペイ決済をしたときの手数料である。すなわち預り金が多くなるほど、利益を生むチャンスも□④ということである。

○ 会社の安全性を示す指標である自己資本比率(株主資本+その他の包括利益累計額)÷総資本で計算)の推移に注目してみると、2X17年は8.1%、2X18年は□⑤%と急激に高くなった。これは、東証マザーズへの上場で大幅な□⑥をしたためである。その後は、利益剰余金が減ったことと、預り金を含めた負債が増えたことで、自己資本比率は低下したと推測される。

○ キャッシュ・フロー計算書では、2X20年6月期のフリー・キャッシュ・フローを計算すると□⑦百万円である。また、各期の財務活動によるキャッシュ・フローと現金及び現金同等物の期末残高をみると、株式上場によって得た潤沢な資金などでキャッシュをしっかりと保有していることがわかる。この3期間だけでも財務活動によるキャッシュ・フローの累計金額が960億円以上のプラスになっている。一方、投資活動によるキャッシュ・フローは常にマイナスである。資金調達したお金を□⑧につぎ込んでいることがわかる。

〔解答群〕

ア 増収増益	イ 増収減益	ウ 減収増益	エ 減収減益
オ 32.0	カ 45.1	キ 46.2	ク 50.0
ケ 9,880	コ 15,186	サ 増資	シ 減資
ス 増える	セ 減る	ソ 投資	タ 積立
チ 衰退企業	ツ 成長企業	テ 消費	

〈資料2〉

要約連結損益計算書

(単位：百万円)

	2X18年6月期	2X19年6月期	2X20年6月期
売上高	35,765	51,683	76,275
売上原価	6,806	12,864	20,661
売上総利益	28,959	38,819	55,614
販売費及び一般管理費	33,381	50,968	76,452
営業損失(△)	△4,422	△12,149	△20,838
営業外収益	37	91	211
営業外費用	355	112	295
経常損失(△)	△4,740	△12,170	△20,922
特別損失	193	396	1,127
税金等調整前当期純損失(△)	△4,933	△12,566	△22,049
法人税等合計	2,106	1,197	2,440
当期純損失(△)	△7,039	△13,763	△24,489
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	-	-	△186
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△7,039	△13,763	△24,303

要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2X18年6月期	2X19年6月期	2X20年6月期
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	109,157	125,578	135,747
その他の流動資産	5,069	26,235	33,528
流動資産合計	114,226	151,813	169,275
固定資産			
有形固定資産	1,037	1,883	2,905
無形固定資産	120	1,081	679
投資その他の資産	2,368	8,908	25,152
固定資産合計	3,525	11,872	28,736
資産合計	117,751	163,685	198,011
負債の部			
流動負債			
預り金	2,223	45,818	83,954
その他流動負債	42,081	15,196	26,174
流動負債合計	44,304	61,014	110,128
固定負債	19,024	51,734	52,516
負債合計	63,328	112,748	162,644
純資産の部			
株主資本			
資本金	34,803	40,110	41,440
資本剰余金	34,783	40,089	41,396
利益剰余金	△15,288	△29,097	△51,870
株主資本合計	54,298	51,102	30,966
その他の包括利益累計額	125	△165	3,819
非支配株主持分	-	-	582
純資産合計	54,423	50,937	35,367
負債純資産合計	117,751	163,685	198,011

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2X18年6月期	2X19年6月期	2X20年6月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,437	△7,289	12,533
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,944	△2,805	△2,653
財務活動によるキャッシュ・フロー	63,617	32,102	465
その他	58	△391	13
現金及び現金同等物の増減額	58,294	21,617	10,358
現金及び現金同等物の期首残高	50,863	109,157	130,774
現金及び現金同等物の期末残高	109,157	130,774	141,132

- 【5】 大手外食チェーン店I社の有価証券報告書の〈資料1〉・〈資料2〉にもとづいて、次の問1・問2に答えなさい。また、解答する上で端数が生じた場合は、円、倍、%ともに小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。ただし、小数点第1位の数値がないときは、例えば9.0%のように解答すること。なお、△印はマイナスを示している。〈資料1〉・〈資料2〉の?の部分は、各自計算して求めること。

〈資料1〉

I社の有価証券報告書から一部抜粋

回次 決算年月		第××期 20X2年3月
売上高	(千円)	40,800,977
経常利益	(千円)	4,127,367
当期純利益	(千円)	?
資本金	(千円)	1,503,270
当期末純資産額	(千円)	?
当期末総資産額	(千円)	40,766,062
1株当たり純資産額	(円)	(1)
1株当たり配当額	(円)	(2)
1株当たり当期純利益	(円)	(3)
株価収益率	(%)	?
配当性向	(%)	?
R O E	(%)	(4)
当期末株価(1株当たり)	(円)	4,648
当期末発行済株式数	(株)	31,926,000

- ※1 I社の前期末発行済株式総数は、当期末と同じである。
 ※2 自己株式は考慮しない。
 ※3 純資産=株主資本とする。

〈資料2〉

I社の有価証券報告書から一部抜粋

株主資本等変動計算書

事業年度(自 20X1年4月1日 至 20X2年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金			
当期首残高	1,503,270	1,388,470	756	26,916,521	△ 2,574	29,806,443	29,806,443
当期変動額							
剰余金の配当				△ 2,553,505		△ 2,553,505	△ 2,553,505
当期純利益				2,248,749		2,248,749	2,248,749
自己株式の取得					△ 96,595	△ 96,595	△ 96,595
自己株式の処分			△ 248		33,916	33,668	33,668
当期変動額合計	-	-	△ 248	△ 304,756	△ 62,679	?	?
当期末残高	1,503,270	1,388,470	508	26,611,765	△ 65,253	?	?

問1 〈資料1〉のI社の(1)1株当たり純資産額,(2)1株当たり配当額,(3)1株当たり当期純利益,(4)R O Eを求めなさい。

問2 次の会話文のaからdにあてはまる数値を計算し、解答欄に記入しなさい。また、①から⑥の【 】欄については、適切な語句の記号を選び解答欄に記入しなさい。

Aさん:「Bさん、誕生日おめでとう。今日たしか誕生日だったよね?」

Bさん:「うん。今日で成人になったし、将来の資産形成のために株式投資について勉強したいと思ってるんだ。」

- Aさん：「そうだね。将来の資産形成のためには、株式投資は重要だと思うよ」
- Bさん：「でも、どうやって始めたらいいかわからないんだよね。Aさん確か詳しくあったよね？ ちょっと教えてくれない？」
- Aさん：「いいよ。まずは、証券会社に口座を開設して、そこで株を買ったり売ったりするんだよ」
- Bさん：「証券会社って、どこがいいのかな？」
- Aさん：「いろんな証券会社があるけど、手数料が安いところや、初心者向けの情報提供があるところがおすすめだよ。Bさんも成人になったからすぐ作れるよ。」
- Bさん：「なるほど。何を目安にして株式投資を始めたらいいのかな？」
- Aさん：「株式投資の目的としては、キャピタル・ゲインとインカム・ゲインの獲得が挙げられるんだ。キャピタル・ゲインは、株式を売買して得られる利益のことだよ。また、インカム・ゲインというのは、銀行に預金していると利子が付くのと同様に、株を保有していると得られる配当金のことなんだ。この配当金は、銀行などの利息と比べるために比率でみるのが重要なんだ。」
- Bさん：「ああ、それって配当利回りのことだね」
- Aさん：「よく知ってるね。じゃあ、このI社の〈資料1〉と〈資料2〉を使って計算してみようか。」
- Bさん：「うん。」
- Aさん：「配当利回りは、1株あたり配当金を株価で割った値で、投資家が株を購入するかどうかを決めるときによく用いられるんだ。I社の配当利回りを計算してみると（ a ）%になるから、これは今の銀行の普通預金の利息よりもだいぶ良いね」
- Bさん：「なるほど。」
- Aさん：「配当は、株主への利益の還元だから企業が当期純利益のうちどのくらいを配当にあてたかを知ることでも大事だ。それを知るための指標が配当性向で、I社の配当性向を計算すると（ b ）%になるよ。」
- Bさん：「ふーん。でもこのI社の数値って、1年間の当期純利益より大きい金額を配当をしてること？ もうけた利益以上の配当しても大丈夫なの？」
- Aさん：「うん。〈資料2〉の株主資本変動計算書を見てわかるように、企業には当期純利益のほかに留保している資金があるからね。I社は株主に気を遣って配当を多くしているんだ。また、企業によってはROEの数値目標を設定している会社もあるんだ。利益がでていれば配当額を多くするとROEの数値は①【ア. 高く イ. 低く】なるんだ。」
- Bさん：「よくわかったよ。じゃあもうひとつのキャピタル・ゲインのほうだけど、株価ってどうやって決まるの？」
- Aさん：「企業の業績や将来性、世界経済の動向などいろんな要因が影響しているので、株価の動向を予想するのはなかなか難しいけど、分析指標を使って自分なりの予想をすればいいと思うよ。」
- Bさん：「どんな指標があるの？」
- Aさん：「企業の株価が純資産に比べて相対的に高いか安いかを測る物差しとして、株価純資産倍率という指標があるんだ。この指標は②【ア. EPS イ. BPS ウ. PBR エ. PER】とも表現され通常何倍と表現するんだ。一般に指標が高いほど割高、低いほど割安と見られるよ。この指標を使ってI社の株価純資産倍率を計算してみると（ c ）倍になるね。同業他社企業の平均は、6.7倍なので、I社の市場での評価はだいぶ③【ア. 高い イ. 低い】と言えるね。」
- Bさん：「つまり、相対的に④【ア. 割高 イ. 割安】ってこと？」
- Aさん：「そうだね」
- Bさん：「他にはなにかある？」
- Aさん：「あとは、企業の利益水準に比べて株価が相対的に割高か割安かを測る物差しとして、株価収益率があるよ。この指標は⑤【ア. EPS イ. BPS ウ. PBR エ. PER】とも表現され、こちらも通常何倍と表現するよ。この比率は、⑥【ア. EPS イ. BPS ウ. PBR エ. PER】とも略される1株当たり当期純利益に対して今の株価が何年分に相当するかを示しているんだ。だから一般に指標が高いほど割高、低いほど割安とみられるよ。こちらもI社の株価収益率を計算してみると（ d ）倍になるね。同業他社企業の平均は、67.2倍なので、だいたい平均値と言えるね。」
- Bさん：「少しはイメージできるかも。ありがとう。でもなかなか市場での資産の変動価格をこまめにチェックする時間がとれないと思うから、投資をしたら一つの銘柄を長く保有して、まずはインカム・ゲインを中心に考えて投資を始めてみるよ。定期的な収入が得られるのも楽しみだしね。」
- Aさん：「株式投資は、初めは難しく感じるかもしれないけど、徐々に理解していくことで楽しみながら投資できるようになると思うよ。」

